

第4号
'03.1.20

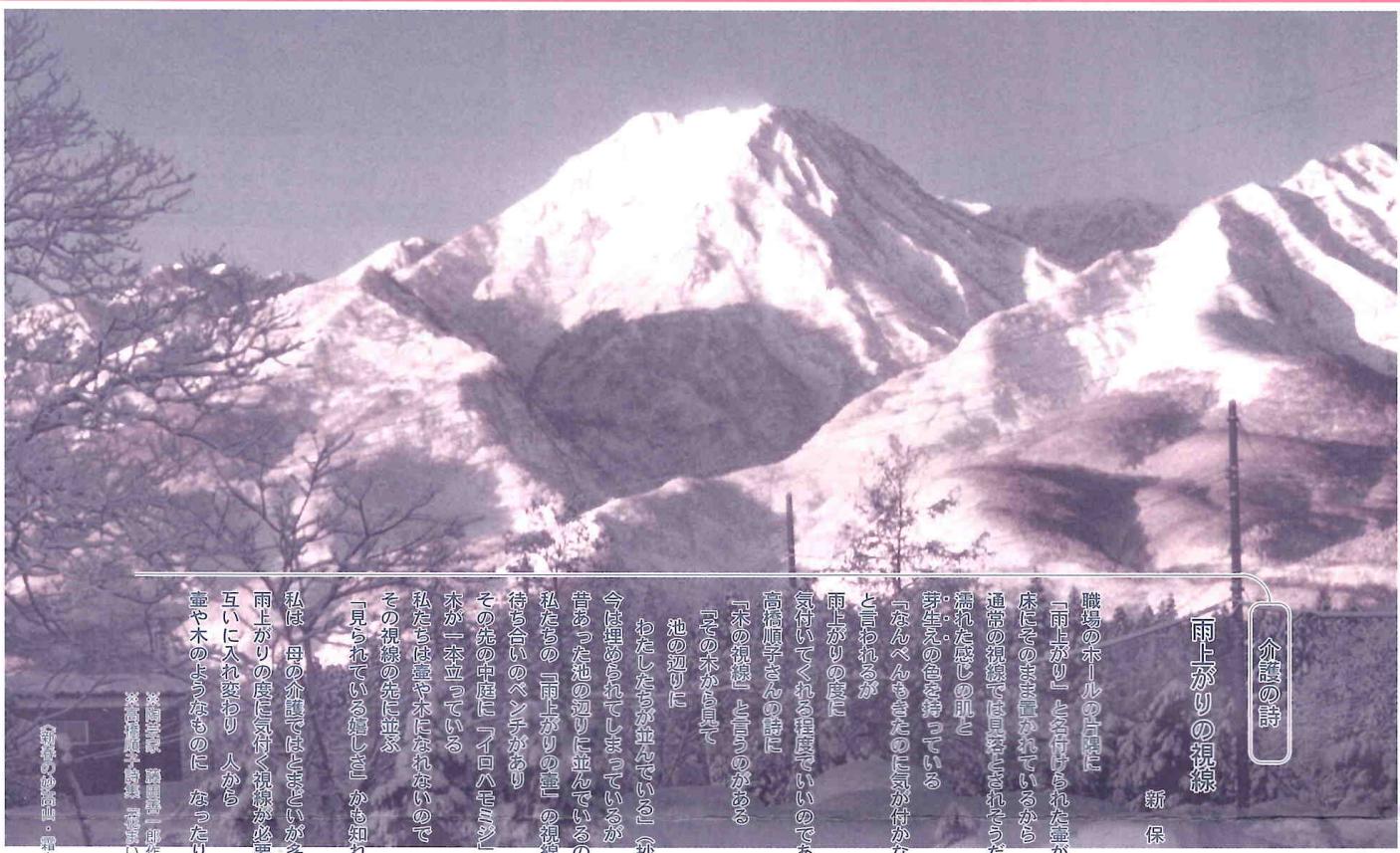
題字
杉 みき子

ざいたくしんぶん

Medical & Welfare

発行
さくらメディカル(株)広報室
〒943-0153 上越市鴨島2-1-9
TEL (025) 522 - 8531

編集・協力
たかだ越書林



職場のホールの正面に

「雨上がり」と書かれた墨が飾つてある

店にそのまま置かれているから

通常の視線では目立たないが

疲れた感じの肌と

生きの色を持っている

なんんでもきたのに気が付かなかつたよ」

と言われるが

雨上がりの度に

気がいてくれる程度でいいのであろう

高橋順子さんの詩に

「木の視線」と書うのがある

「木の木から見て

池の通りに

ねたしたちが並んでいる」(抄)

今は埋められてしまっているが

木から見て

昔あった池の通りに並んでいるのだ

私たちの「雨上がりの木」の視線の先にも

待ち合ひのベンチがあり

その先の中庭に「アローヘモジ」の

木が一本立っている

私たちは木や木にならないので

その視線の先に並ぶ

「見られていない感じ」かも知れない

私は 母の介護ではとまごいが多かつた
雨上がりの度に気付く視線が必要だった
互いに入れ交わり 人から
壇や木のようなものになつたりもした

※題字 講義録「即作
『新緑の妙高山・春鳥一三氏撮影』
『新緑の妙高山・春鳥一三氏撮影』
『新緑の妙高山・春鳥一三氏撮影』

雨上がりの視線

介護の詩

新保 啓

新緑の妙高山・春鳥一三氏撮影



金城大学副学長
井上千津子氏

1943 長野県に生まれる
1974より上越市にてホームヘルパーに從事
1990より介護福祉士養成専門学校の教員・大学の非常勤講師
1995より東海大学健康科学部社会福祉学科教授

現在・金城大学副学長

著書に
『ヘルパー奮戦の記』(ミネルヴァ書房、毎日出版文化賞受賞)
『わたしのホームヘルパー宣言』(インデックス出版)など

新春BIG 対談 「ざいたく」介護が一番

（二・三面
掲載）
加えて上の詩は、お母さんの在宅介護を実践され、その模様を「あちらの部屋」という詩集中まとめて、出版された詩人の作です。

1930 高田市(現・上越市)に生まれる。
大手町小、高田高等女学校(現・北城高校)を経て、長野県女子専門学校(現・短大)国語科卒。

1954頃から、新潟日報に童話の投稿、関英雄氏の指導を受ける。
1957 児童文学学者協会新人賞
1972 小学館文学賞
1983 赤い鳥文学賞
日本児童文学学者協会会員・短歌誌「北潮」会員
高田文化協会副会長、その他、文化活動に関わり、著書多数。



児童文学作家
杉みき子氏

LOVING CARE
CAPE

株式会社 ケープ

〒238-0013 神奈川県横須賀市平成町2-7
TEL.046-821-5511 FAX.046-821-5522

URL <http://www.cape.co.jp>

自立支援と褥瘡予防の両立

エアマスター・アクティ

褥瘡予防エアマット
介護保険貸与対象品目



定価/108,000円

新春対談



在宅
痴呆

介護は文明社会のバロメーター

人間として、介護されることのない世界、高齢になつても健康で普通に歩きたいし、普通にものを考えたい、ある時唐突にお迎えがくる……そんな幸せな人生を手に入れたら、これほどうまい話はありません。

そんな事をお願いした話ではございませんが、杉みき子さんは児童文学といふことから人生を切り開く観点で、井上千津子さんには結果に向つて生き抜いた総まとめ人生を見つめてきた思いを述べていただきました。本を通しての立場、学校という実体験の対比から生まれたお二人の話、何が飛び出して来ますか……。

記

というヘルパーの活動を通じてお年寄りの実態を表現した本で賞をいただき、そのお祝いの席で杉先生に、とつても誉めいただいんです。

井上先生がヘルパーになられたのはいつですか？

井上 昭和四十七年くらいからです。お年寄りの生き

りますね。雪のときに初めて高田に来て、「雪国とは

井上 先生との会いはいつどこで

でしょうか？

井上 私と杉先生とのきっ

かけは、高田に来て「六鈴

痴呆は人生のある一部

痴呆は人生のある一部

井上 私は痴呆のお年寄りつて好きなんですが、言葉で当たつてしまふんで皆さん、痴呆だけは嫌だつておっしゃるんですよ。痴呆

杉 おばあちゃんがよく出て来る中、人生の一時そ

井上 おばあちゃんに、お嫁さん

河野さんでしたね。ヘル

井上 杉先生には出版記念

井上 千津子著『わたくしのホームヘルパー』

成長して、老いて、というふうに、その年を重ねて生き抜いてきた存在というだけ

井上 私が七十と最年長で、六十歳から三十歳といふ年です。でも最後は自分のいるところがわからなくなつて

杉 このあいだ「子ども

井上 おばあちゃんがよく出てくるんですよ。信州松

井上 おばあちゃんがよく出て

井上 おばあちゃんがよく出て

井上 おばあちゃんがよく出

井上 おばあちゃんがよく出

井上 老いていくにした

井上 おばあちゃんがよく出

井上 おば

奇跡を生む地域に！

上越市 A

あんなに元気で病氣ひつしなかった父が突然、脳梗塞で倒れ右半身不隨の姿に……。ドクターからは、神經が集中している血管が詰まり、他の人と比べるとかなり重症と言われました。歩けるかどうか確約は出来ないと宣告されてから一年、父にとってどん底から這い上がるくらいの長い長い道毎日、「頑張れ！」と言われ、その頑張りの山がプレッシャーとな

り動かない右手、右足との戦い。そして薄皮一枚ずつ剥ぐように右足が少しづつながら歩けるようになったのです。

ここまでこれたのは、県外にある療養型リハビリ施設に入院し、同じ病気になった方々と共に励ましありました。病に倒れ入院して

なります。しかし家に帰つ

るから夕方までさまざまな機会で知つたのが県外の療養型リハビリ施設です。朝

もトレイもすべてです。

上越にもこういった療養

施設がありましたが、それ、入所の方々は社会復

帰を目指し厳しい訓練をこ

ながら歩けるようになったのです。

何かの合宿に来ているよう

な感じで、班

ごとに「いた

だきます！」

の声を掛け合

い笑顔で食事

をするのです。

そうすること

によって自然

とチームワー

クが生まれ、機能回復訓練

…。上越にも療養型施設を配したりリハビリティーショ

ンセントラルが出来ました。

した。その甲斐もあってか

が起るかもしれない！何

とかしてほしい！病院長に

手紙を書いたこともありま

した。その甲斐もあってか